

労働環境支援委員会

委員長：古山 とし

1. 活動方針及び活動目標

1) Z世代の看護師が看護職として働き続けるための工夫と看護管理者の変革
2) タスク・シフト/シェアの現状と具体的な業務内容の洗い出し

2. 活動内容

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
定例委員会 【マルイトOBPビル】 Zoom併用	各施設において、今後組織の中核を担っていくZ世代の看護職の確保、定着のための現状や課題について情報交換し、有用な取り組みを共有することとした。	全10回 (4月、12月 第1金曜日を 除く)	委員15名
【労働環境支援、対策等 専門家からの情報提供】	医療者のSNS利用、看護師の副業兼業に関するガイドライン、試用期間中の採用に関する取扱い等情報提供及び案件の検討	—	—

3. 活動実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
OSAKA看護だより Vol.150	昨年度の委員会で、『プラチナナースの活用』に取り組んだ3施設の実践報告が掲載された。	5月	50,400部配送
【活動の概要】 <Z世代の特徴から大局的に考える看護管理者の取り組み> 1) Z世代との対話から特徴を理解 2) 労働環境調整 ①成果に見合った労働対価が得られるよう交渉、②多様な働き方、③他職種によるカウンセリング支援（検討後に導入実績の施設があった） 3) ダイバーシティに対応 ①多様性を受け入れる、②過去の常識やルールを見直し、環境変化に柔軟に対応、③ジェンダーレスの実現のための環境調整、④育児支援は未来への投資、⑤育児者を支える職員の支援、⑥退職者をキャリアアップの機会として支援 4) VUCA時代と理解し、社会状況の変化に応じた対応 5) 医療DXや多職種タスク・シフト/シェア推進 ①電子カルテ導入、更新、病院機能評価受審、厚生局等の調査等の機会に看護部門代表として交渉、②看護業務の標準化や定例化を図る、③タスク・シフト/シェアについては組織全体の最適化の視点も必要			

4. 課題・その他

1) 離職率については全国、大阪府、各施設の状況を把握し、引き続き職員の特徴を踏まえた育成と定着を目指して、魅力ある職業、職場環境を整えることが課題である
2) 看護管理者として育児期間中の看護師支援と育児者を支える全ての看護師を支援する仕組みづくりが重要であり、組織的な取り組みとして各施設で発信し交渉していく

3) 医療DX推進については、各施設での取り組みと並行して看護界全体で看護業務の標準化、定型化しDX化を推進する必要がある